

# EXERCISE 165

〔不妊・不育症対策〕  
排卵予知診断法

**Q 824** 排卵予知の診断法として主に用いられるのはどれか。

- a) 超音波断層法による卵胞径
- b) 超音波断層法による子宮内膜の厚さ
- c) 基礎体温
- d) 血中 LH 値
- e) 頸管粘液量

**Q 825** 排卵直後の所見として間違っているのはどれか。

- a) 卵胞の縮小
- b) ダグラス窩の液体貯留
- c) 尿中 LH 高値
- d) 卵胞内エコー（不規則な嚢胞様エコー）の出現
- e) 頸管粘液結晶形成著明

**Q 826** 誤っているものはどれか。

- a) 排卵は、LH サージ開始から34～38時間後で起こる
- b) 一般に、自然周期では排卵までに主席卵胞の最大径が約1.5mm/日の割合で増加する
- c) 排卵後の子宮内膜は子宮筋層と比較し hyperechoic な像を呈する
- d) 基礎体温において体温陥落日や最低体温日は、排卵を予知するうえで有用である
- e) 子宮内膜の厚さは頸管粘液の性状と関連する

**Q 827** 尿中 LH 測定法について誤っているのはどれか。

- a) 月経周期が不規則な症例に有用である
- b) 陽性化後、1～2日以内に排卵する
- c) 経腔超音波断層法との併用が望ましい
- d) 通常、20～50mIU/ml の感度で陽性となる
- e) 正確な LH サージをとらえるには朝夕2回の検査が望ましい

**Q 828** クロミフェン投与例における排卵時期の特徴として正しいのはどれか。

- a) 尿中 LH 測定法は有用でないことが多い
- b) 卵胞径が18mm 以上にならないことが多い
- c) 頸管粘液量が多くなる例が多い
- d) 頸管粘液の粘稠性が高くなることが多い
- e) 子宮内膜の厚さが10mm に達しない症例も多い